

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 41-2
通号 第 105 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

体験学習を実施しました。

常盤小学校3年生3クラス110名の児童が浦和博物館で体験学習を行いました。

始めに館外で館職員が、浦和博物館の建物について、また、3年生副読本『かがやくさいたま市』の中から「昔の道具と人々の暮らし」について、実際の資料を用いて、使い方などを説明しました。

3年生の皆さんは礼儀正しく、館員の説明にしっかり耳を傾けていました。

館内に入ってから、5、6名のグループごとに、昔の道具の使い方の体験をしました。

最初は全員で、昔と今の照明器具の明るさの違いの体験をしました。

まず、館内を暗くして、順次ろうそく、行燈、石油ランプ、白熱電球、蛍光灯の順番で、明かりを変化させていきました。

昔の薄暗い照明から現代の明るい照明に変わった時は、歓声があがるほど、違いを実感していました。

その後は、グループごとに、たらいと洗濯板を使っての洗濯、炭火アイロンを使ってのアイロンがけ、また、竿秤を使って物の重さをはかったり、石臼を使って大豆をひき粉にしたり、みかんの皮をひいて粉にするなど様々な道具を使って体験学習をしました。

それぞれの体験場所で、昔の道具の扱いに関心を持ち積極的に取り組み、覚えたことをその場でしっかりメモを取るなど意欲的に学習していました。

児童の皆さんは、便利になった現代の生活環境の中で、昔の道具に触れ、どのような思いを感じたのでしょうか。



■ 目 次 ■

体験学習を実施しました	1
常盤2丁目の庚申塔	2
春から夏の行事カレンダー・日誌抄	4



与野へと続く道 — 常盤2丁目の庚申塔

平成24年11月、当館に文化元年（1869）銘の庚申塔、不動明王像、正徳6年（1716）銘の石柱の計3基の石造物の寄贈がありました。これらは、浦和区常盤2丁目にある児童文学作家・翻訳家の石井桃子（1907-2008）さんの生家に保管されていたもので、今まで、その存在が一般には知られていない石造物でした。『うらわ文化』第116号の中で、これらの石造物に気づき、調査した経緯が記されています^(注)が、それが縁となって、当館の庭に移設前と同じ並びに庚申塔と不動明王像が設置されました。



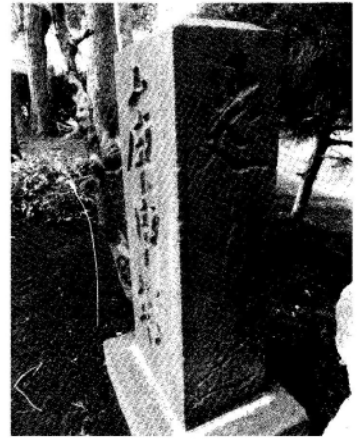
▲移設後の庚申塔（左）と不動明王像（右）

庚申塔は、正面に大きく「庚申塔」と刻んだ文字庚申塔です。高さ80cm、幅30.5cm、奥行20cmの角柱で、銘は以下のように刻みます。

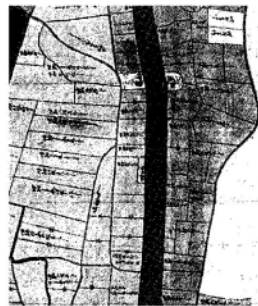
- 〈正面〉 庚申塔
 〈右側面〉 よの
 是より 川越 道
 秋葉
 〈左側面〉 文化元年甲子十一月日
 上宿講中

講に参加した人々の名前や石工の名前は見られませんが、文化元年に上宿（現・浦和区常盤）の講中によって建てられたことや、道標の役割を担っていたことが、銘文から読み取れます。

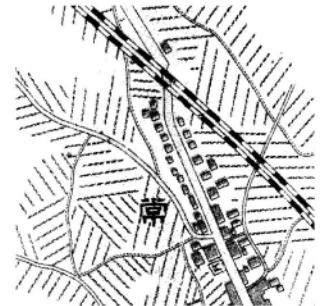
道端では、いたずらをされてしまうため、屋敷内に移動したそうですが、元は、中山道沿いに建てられていたということです。そうであれば、この庚申塔が立っていた場所に与野へと続く道の分岐点があったということになります。今では、国道463号バイパスの新浦和橋の陰に隠れて路地ようですが、かつて「与野道」と呼ばれた道がここに残っていたのです。



▲庚申塔右側面



▲浦和宿絵図（部分）



▲浦和町明細全図（部分）

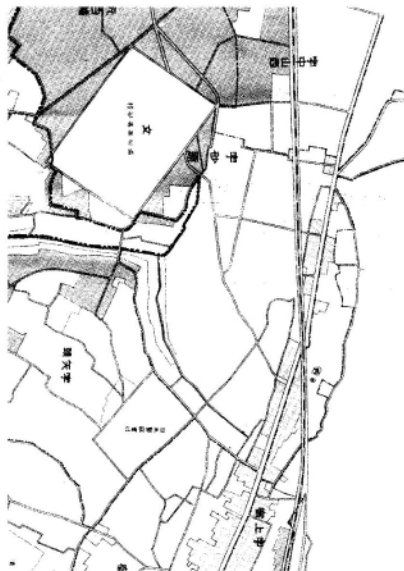
文化8年（1811）の『浦和宿絵図』（市指定文化財）を見ると、一里塚の南側、中山道を左に入る道が見えますが、これが、与野へと向かう道です。『浦和宿絵図』は、非常に精度の高い絵図で、現在も使われている道が多く見られます。一里塚は現存していませんが、絵図に描かれた付近の状況から、JR 東北本線を越える浦和橋付近にあったと推定されています。大正3年（1914）に発行された『最近調査浦和町明細全図』（文華堂発行）と比べてみると、ほぼ重なることがわかります。また、この『浦和町明細全図』にも「旧浦和川越道」と記載されています。その他、明治35年（1902）発行の『浦和町営業便覧』には、ご寄贈いただいた家の北側に「與野道」の記述があり、与野、川越に向かう道がここにあったことが史料からも見て取れます。

それでは、なぜ、この「与野道」が、細い路地のようなってしまったのでしょうか。



ここに2枚の地図があります。これは、昭和14年(1939)に発行された『埼玉県浦和耕地整理組合事業完成記念帖』に収められた、耕地整理前と後の地図です。

大正11年9月に起工したこの事業は、浦和町(現・浦和区常



▲耕地整理組合原形図

盤、仲町、東仲町、高砂、東高砂、岸町)の大部分のほか、大戸(現・中央区)、別所、白幡、大谷場(以上、現・南区)、本太、針ヶ谷(以上、現・浦和区)の一部を対象地域として227町8反歩余(約2.2km²)に及び、道路・水路の整備、橋の改善、字名の変更が行われました。遠回りをしたり、折れ曲がったりした道は、その重要度にあわせ、幅6間、4間半、3間、1間半(1間=約1.8m)の4種類に整理され、6間、4間半の道路は中山道に接続するようにしました。そのため、道路の妨げとなる人家等の移転も行われました。

与野道も、最短で中山道に出られるよう、中山道との接続部を北に移動して拡幅されました。『耕地整理組合原形図』では、「畑地」の色分けがされていますが、『耕地整理確定図』と比較すると、その部分が道路として拡幅されていることがわかります。一方、今までの接続部は、おそらく1間半に整備されましたが、中山道と現在の国道17号



実線が今の与野道
破線が元の与野道
●が庚申塔のあった場所

線を結ぶ道路がすぐ北に整備された(現在の国道463号バイパス)ため、往来は減少していったものと考えられます。今では細い路地ですが、「与野道」は今も残っています。

余談ですが、与野道を西に進み、現在の国道17号線と交わる箇所に、



▲耕地整理組合確定図

ここに石橋を架け、同時に道普請を行い、石橋のたもとに石橋と道路が末永く守護されることを願って建てたものです。耕地整理によって水路は埋め立てられ、石橋も撤去されましたが、供養塔は残り、現在に至ります。この供養塔も左側面に「是よ里与の川越道」と刻み、道標の役割を兼ねていました。



▲浦和宿石橋供養塔

この庚申塔が明らかにした「与野道」には、現存するより多くの道標があったことを想像させてくれます。

一方、一緒に寄贈された、不動明王像と石造物は謎に包まれています。庚申塔と並んで建てていた舟形光背の高さ39cmの不動明王像は、台石に「不動尊」と刻む以外、年号も願主等の名前も見ることができません。また、正徳6年の銘を刻む石柱は、寄贈者宅から出土したもので、現高35cmの角柱です。下部の存在ははっきりしませんが、正面に、不動明王を示す種子「カーン」と願主と思われる「星野又左工門」「渡貫権四朗」の2人の名前、右側面に「正徳六申四月吉日」を刻みます。この石柱も造立の趣旨が明らかではありませんが、浦和宿上寺の成就院は、足立百不動尊の札所になっていますので、不動明王に関連するこれらの石造物は、何かかわりがあるのかもしれない。(T)

注 野中味恵子「常盤二丁目の庚申塔について」『浦和文化』第116号 平成24年9月



春から夏の行事カレンダー

●企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

期 間 5月6日(月・祝)まで

内 容 道具をとおり、昔のくらしを振り返ります。

●収蔵品展

期 間 5月17日(金)～6月30日(日)

内 容 新しく収蔵された資料と共に、当館に寄贈された「絵はがき」を展示します。

●企画展「夏休み子ども博物館」

期 間 7月19日(金)～9月1日(日)

内 容 小学生を対象に、コーナー展示と、昔のあそびやおもちゃ作りなどの「体験教室」を行います。

●親子探鳥会

日 時 6月8日(土) 9時～12時頃

内 容 見沼たんぼでバードウォッチング

対 象 小学生とその保護者20組(要申込)

集 合 9時に浦和博物館集合

その他 雨天決行。双眼鏡なくても可

●夏休み体験教室

●昔のおもちゃ作り

日 程 7月27日(土)

●見沼通船堀の仕組み実験

日 程 8月3日(土)・4日(日)

※この他にも体験講座を実施します。内容や日程などの詳細は「市報さいたま」をご覧ください。

日誌抄

H24.12/14(金)～H25.5/6(月) 「ちょっと昔のくらしの道具展」

H25.1/12(土)～14(月) 昔のあそび体験コーナー(こま、めんこ、おはじき、けん玉など)

1/14(月) おもちゃづくり(ペットボトルの「ふた」を使って、動くおもちゃを作ろう)

1/16(水) 体験学習(常盤小学校3年生)

1/16(水)～18(金) 中学生職場体験(美園中学校)

1/20(日) 定例探鳥会

1/23(水)～25(金) 中学生職場体験(東浦和中学校)

1/30(水)～2/1(金) 中学生職場体験(木崎中学校)

2/1(金)～5/6(月) 道具さがし

2/5(火)～7(木) 中学生職場体験(三室中学校)

2/14(木) 体験学習

(浦和ルーテル学院小学校3年生)

2/17(日) 定例探鳥会

3/17(日) 定例探鳥会

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさす** No.105

編集・発行 さいたま市立浦和博物館

〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地

TEL・FAX 048-874-3960

発行日 平成25年3月19日

ホームページ

<http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html>

E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。

